

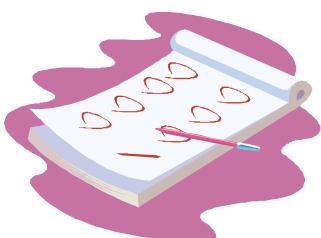
英語授業の きほん の「き」

(その3)

今回の質問は、

Q 書く活動を行った時、作成された英文はどこまで添削すればよいですか？

添削ばかりしていると書く意欲を低下させてしまいそうで…



まさに、そのとおりです。

真っ赤に訂正された英文。「一生懸命に書いたのに・・・」生徒の落ち込んだ声が聞こえてきそうです。

でも、正しい文章を書かかせたいという教師の気持ちは誰にでもあります。そこで、上記のような悩みが出てくるのだと思います。

結論としては、

A その授業の「ねらい」によります。

英文を書かせる目的は何なのかによります。英文を正確に書かせる活動なのか、文と文のつながりを意識してまとまった文章を書かせる活動なのか、によっても違ってきます。

前者であれば、正しく書けるよう追指導が必要になります。できれば、個々に自ら間違いに気付くような視点を示し、再度書くような機会を設けたいものです。生徒の書いた英文は、教師の指導の結果でもあります。順を追って、文構造、綴りなど生徒が正しく書けるような指導がより求められます。

後者であっても、教師の十分な指導が必要なのは同様です。しかし、訂正是グローバルエラーのみにするなどの配慮も必要です。文と文のつながりなどを意識して、既習事項を駆使しながらまとまりのある文を工夫して書くことが大切なポイントになってくるので、その点を優先的にチェックポイントにするべきです。



いずれにせよ非常に大切なことは、間違いチェックを教師だけがするのではなく、生徒自身に自分の英文をチェックさせることです。自ら間違いを見つけ推敲する力を育てることはたいへん重要なことです。

英文完成前に、必ず自分の英文を読み直す、文法的に確認するなどの習慣を身に付けさせたいものです。これは自然にできることではありません。まずは、教師からこのことについて指示するようにしましょう。生徒の実態や学習内容に応じ、見直すポイントを具体的に示してもよいでしょう。